

第1回学校運営協議会報告

とき 平成31年1月23日（水）19：00 ところ 広尾小学校会議室

開会挨拶【菅原教育長】

本年は、広尾町の3つの小中学校にコミュニティ・スクール制度を導入する、広尾町の教育にとって重要な年です。

本日、広尾小学校に学校運営協議会を設置いたしました。これにより、これまで学校に任せていた教育目標や教育内容についても、法令や学校運営協議会規則に基づいて、地域住民・保護者が参画することができるようになりました。

「学校と地域の垣根を低くしたい」「学校と地域・家庭が一体となった教育を進めたい」と願っていた学校関係者にとっては期待が膨らむ制度であります。

また、これを機に、地域や家庭の役割を改めて問い直すことも、この制度の趣旨として重要であります。学校運営協議会は地域住民や保護者が学校運営に参画する仕組みであると同時に、自らの役割を問い直し、学校運営に対する理解・協力を促すというねらいがあります。

委員の皆さんにはこうした観点からの具体策についても、積極的に発信していただくようお願いいたします。

教育委員会では、地域や家庭の教育機能を強化するために、「広尾っ子応援団本部」を設置いたします。既に、広報などでお知らせしている「広尾っ子応援団登録制度」や「応援メッセージ」を本部の核となる事業と位置付け、学校運営協議会の取組を後押ししたいと考えております。

本日の協議会では、「広尾小の子ども像」をテーマにした「熟議」が予定されておりますが、これを踏まえて、来年度の広尾小学校の目標や計画が検討されると承知しており、「学校運営への参画」の具体的な形として、意義深いものを感じております。

皆様には、それぞれのお立場やご経験から貴重なご意見をいただけるものと期待しております。

終わりにになりましたが、皆様には、快く協議会委員をお引き受けいただいたことにお礼を申し上げますとともに、本日の会議が実り多いものとなりますことを祈念いたしまして、開会に当たっての挨拶といたします。

会議次第

1. 委嘱状手交
2. 開会挨拶
3. 自己紹介
4. 説明「協議会委員の役割について」
5. 学校運営協議会長、副会長選出
6. 熟議「目指す子ども像」
7. 閉会挨拶

学校運営協議会委員（広尾小）

（地 域） 【辻田 廣行】 【土屋 雅敏】 【中谷 貴治】 【◎足立 清洋】

【末永 裕治】 【城山 美津枝】

（保護者） 【○齊藤 一也】 【三浦 弘樹】 【二本柳 圭一】 【尾矢 利昭】

【佐藤 寛光】

（学校長） 【高橋 敏宏】

（教職員） 【水上 潤】

◎会長 ○副会長

熟議「目指す広尾小の子ども像」



学校運営への参画プロセス

目指す子ども像⇒重点教育目標・教育課程⇒経営計画⇒子どもたちの実態⇒学校関係者評価

キーワード

他人を思う

挨拶

多くの意見が交流されました。フリートーキングでは挨拶の指導の在り方が議論されました。（同意見は割愛しています。）

人の話を聞ける子、人の話を聞いて対応する子、協調性のある子、人にやさしく、仲間意識をもてる、人を思いやる心をもってほしい、相手の気持ちが分かる子、友だちを大切にする、支え合いができる子、いじめは絶対しない、人（友達）を思う

感謝

元気に挨拶ができる、挨拶ができる子

感謝できる、感謝の心をもつ

郷土愛

郷土に誇りをもってほしい、郷土（広尾）に愛着をもてる子

自主性

主体的に活動（学習や生活）する子ども、親に頼らず自分で出来ることはしてほしい、自主性がある子ども

ねばり

最後まであきらめない子、たくましく、一生懸命頑張る

手伝い

親の手伝いをする、積極的に手伝いの出来る子

探究心

知らないではなく知ろうとしない→知ってほしい、興味をもつ

健康

（外で遊ぶ）

外でたくさん遊ぶ子、元気で外で遊べる、スポーツをやる子ども（忍耐力）体力のある子、健康に気を付ける

道徳心

道徳心、善悪の判断をつける

キーワードで
括られなかつ
た意見

学ぶことは後で自分のためになることを自覚する 夢をもつ
自分のことを分かる子ども 親・年配者を尊敬できる
自己肯定感や有用感をもてる子ども はきはき話せる
「失敗」と思わず「経験」と思える子ども 素直で正直な子
一歩、二歩先を見ることができる子 現実的な子 笑顔で
広尾の海の幸を（全部とまでいかななくても）好きでいてほしい
パソコン・スマホも必要ですが一番大切なのは生身の人間対人間
ゲーム、スマートフォンなど依存しやすいものとうまく付き合える
サンタを大事にする子（大人になっても）
地震・津波を熟知して命の守り方がわかる子
自然を愛することができる